
もしもし、こちら何でも屋保神です。

部長の王子様

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もしもし、こちら何でも屋保神です。

【Nコード】

N5749N

【作者名】

部長の王子様

【あらすじ】

みなさんは『何でも屋』という職業をご存じだろうか？

東京都某所。

ここに、VIP専用という今までにない『何でも屋』が存在する。

その名は……………。

(前書き)

初めての短編です!!

うまくできているかどうかドキドキですが、読んで行ってもらえたら幸いです。

それでは、はじめっ〜はじめっ〜

時は9月…。

俺は仲の良い友達四人と試験勉強に明け暮れていた。

なぜなら、明後日から期末テストだからだ…。

しかし、勉強というものは面白くも何とも無い。

試験なんぞクソくらえだ…。

自己紹介が遅れた…。

俺の名前は保神ホカミカオル薫。

薫とは女みたいな名前だが、性別は男。16歳。高校2年生。

成績普通、スポーツ普通、ルックス普通、という何のアピールポイントも無い俺だが、ただ一つだけ皆には真似出来ない事をやっている。

それは、『何でも屋』だ。

『何でも屋』なんて誰でも出来るじゃん、と思った奴。そこに土下座して最後まで話を聞け。

俺がやっている『何でも屋』は、ただのソレとは訳が違う。一緒にしてもらっては困る、というより心外だ。

どこが違うのかと言うと、俺のはVIP専用の『何でも屋』だということ。

最近やった仕事は某合衆国の大統領暗殺阻止、東京タワー爆破予告犯逮捕、首相の一日影武者などだった。

いやー、どれも骨が折れる仕事だった。

特に『首相の一日影武者』の時はマジで命を狙われたしねwww。

（ ロッキーマンのテーマ ）

電話だ、相手は…。

『首相官邸』

首相だった。

めんどいが電話に出る。

「ハイもしもし、こちら『何でも屋保神』です。ご用件をどうぞ、

……………はい、うん、……………報酬は？……………了解」

用件を手短に聞き、電話を切る。

用件は……………、東京スカイツリーに仕掛けられた、爆弾の解除及び犯人の確保。

正直キツイ。

だが、ここで俺が「NO」と言うとスカイツリーがボンツだ。

やるしかない。

四人に適当な理由を言ってその場を離れ、携帯を開く。相手は俺の部下、結城初音^{ユウキハツネ}だ。

プルル、プルル、プルル。いつも通りコール三回で電話にでる。

「結城です。必要な物とそれを届ける場所と時間を教えて下さい。

ちなみに現在時間は18:47です。」

「19:30にスカイツリー工事現場。必要な物は、爆弾解体セット、逆探知機、双眼鏡、手錠、散弾弾、ガスマスク、拳銃、弾、バイク、以上。遅刻厳禁だ」

「了解。準備を開始する」

部下への指示を終えた後は目的地へと向かう。

できたら、今日中か明日までには終わらせたい。

なんせ明後日からテストだからな…。

《スカイツリー工事現場》

部下から受け取った道具と、政府からの情報で爆弾の解体を始める。

爆弾は遠隔操作受信機が取り付けられてあるらしい。

犯人にばれないように速やかに作業を行う。

解体を進めていくと、水銀バーを発見。

これは少しの振動で起爆する厄介な物だ。

10分後、解体を終えた俺は遠隔操作受信機に逆探知用の装置を取り付ける。

政府の特別製だ。

5分後、逆探知機が逆探知に成功。

位置データを携帯端末とリンクして、俺は犯人の所へ向かう。

チラリと時計を見ると、

短針が8と9の間を指していた。

どうやら今日中に終わりそうだ。

21:42

甘かった。

犯人に爆弾が解体された事がばれて逃げられた。

これは政府からの極秘任務なので警察の協力は期待出来ない。
仕方がないので漆黒のバイクにまたがり追跡を開始。

23:58

遂に犯人確保。

結城に連絡を入れ、迎えを寄越させ、その車に犯人をぶち込む。
何とか今日中に任務が終わった。

後日、首相から感謝状と報酬金が送られてきた。

しかし、それはどうでもいい。

金と感謝状はいらなから今回のテストの点数を上げて欲しかった。

あんな任務が入ったせいで今回のテストは平均がかなり下がった。

げんなりしていても、こちらの都合を考えない電話は来る。

プルル、プルル、プルル、

「もしもし、こちら『何でも屋保神』です…。」

(後書き)

どうでしたでしょうか？

初めて書いた短編なので、感想等いただけましたら嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5749n/>

もしもし、こちら何でも屋保神です。

2010年10月10日21時12分発行